

言葉を根拠にして動作化し、読みを深める児童の育成

～小学2年「かさこじぞう」の実践を通して～

安城市立安城東部小学校 早川 仁未

1 主題設定の理由

本学級は、読書を好む児童が多く、物語に親しみをもっている。11月教材「お手紙」では、登場人物の気持ちがわかる箇所を本文からすすんで探す姿が見られた。しかし、「どうして、『二人ともとてもしあわせな気持ち』なのか」と投げかけると、「『とてもしあわせな気持ち』と書いてあるから」と文中の言葉を挙げるだけで、想像したことを具体的に説明できる児童が少なかった。もっと物語の世界に浸らせることができれば、児童らが登場人物に寄り添って情景や人物の気持ちをイメージ豊かに想像できるだろう。そうした活動を工夫することで、言葉を根拠に読みを深める力を伸ばしたい。

本教材「かさこじぞう」には、正月を迎える準備ができないほど貧しい境遇であっても、他者を思いやる心を失わずに生きるじいさまとばあさまの優しさが描かれている。雪風が冷たく吹く中、自分のことをいとわずにじぞうさまにかさこをかぶせる様子、もちつきのまねごとをして年越しを明るく過ごす様子などを動作化することで、二人の様子を具体的に思い浮かべ、その優しさを具体的に捉えながら読みを深めることのできる作品だといえる。

そこで、動作化により、言葉を根拠にして人物の気持ちや情景をより想像豊かに読み深めることを目指し、本実践に取り組んだ。

2 目指す児童像

主題を受けて、本研究で目指す児童の姿を次のように設定した。

・言葉を根拠にして豊かに想像し、読みを深めていく姿

3 研究の仮説と手だて

(1) 定義

本実践を行うにあたり、本研究で扱う言葉を次のように定義する。

読みを深めるとは：文字を追って読んだこと感想にとどまらず、人物の気持ちに寄り添い、行動の意図を想像しながら自分なりの考えを形成すること。

(2) 研究の仮説

仮説 登場人物の気持ちを読み取る場において、文章中の言葉を動作化し、見比べて検討する活動をすれば、登場人物の気持ちに寄り添いながら、行動の背景にある思いについて想像をイメージ豊かに広げ、読みを深めることができるだろう。

(3) 研究の手だて

手だて1 登場人物の優しさの根拠となる言葉を中心に動作化を行う

手だて2 動作化をする際の学習の流れをスモールステップで示す

(1)動作化の合い言葉を提示する

(2)動作化を試して撮影する

(3)動作を見比べて話し合う

手だて3 動作化に対する問い返し、発問を工夫する

(4) 研究の構想 単元構想(17時間完了)

学習課題	
<p>「かさこじぞう」を読み、学習課題を考えよう①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じいさまと、ばあさまは優しい人だな。 ・じいさまは、どうしてじぞうさまにかさと手ぬぐいをかぶせたのだろう。 ・かさこが売れなかったのに、じいさまは、どうして「やっと安心してうちに帰った」のだろう。 	
<p>場面を分けて出来事確かめよう③～⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じいさまがかさこを売りに出かけたけれど、一つも売れなかったよ。 ・じいさまは、じぞうさまにかさと手ぬぐいをかぶせたよ。 ・最後、じぞうさまからいろいろな物をもらったよ。 	<p>【教師による動作化】</p> <p>とんぼりとんぼり かきおとす かたやら せなやら</p>
<p>なぜ、じいさまは「やっと安心してうちに帰った」のだろう⑦⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かさこは一つも売れなかったけれど、じぞうさまにあげることができたから。 ・正月の物を何も買えず帰ると、ばあさまを悲しませてしまうけれど、じぞうさまにいいことができたので、ばあさまもきっと喜んでくれると思ったから。 	<p>【児童の動作化】</p> <p>風でとばぬよう、しっかりあごのところでむすんで</p>
<p>なぜ、二人はもちつきのまねごとをしたのだろう⑨⑩(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何も買って帰れなかったのに、温かく迎えてくれたばあさまの言葉がうれしかったから。 ・もちこがなくて、もちがつけないうさみしさを紛らわそうとしたのだと思う。 ・正月を迎えるための物は何も無いけれど、二人でよいお正月を迎えようとしたのだと思う。 	<p>【児童の動作化】</p> <p>いろりのふちをたたきました あいどりのまねをしました</p>
<p>なぜ、じぞうさまはいろいろな食べ物をとどけに来たのだろう⑪⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かさこと手ぬぐいの恩返しをしにきたと思う。 ・優しいじいさまとばあさまに、よい正月を迎えてもらいたいと思ったから。 	<p>【児童の動作化】</p> <p>じょいやさじょいやさと、そりを引く</p>
<p>じいさまとばあさまにとっての「よい正月」とはどういうことだろう⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お正月のものをじぞうさまからもらえたからよい正月になったと思う。 ・正月のものがなくても、楽しそうに餅つきのまねごとをしていたから、二人で一緒に楽しく過ごすのがよい正月。 ・じいさまとばあさまが二人で仲よく過ごせることがよい正月なのだと思う。 	
<p>優しさを感じるお気に入りの場面を選び、演じてみよう⑭⑮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じいさまが、じぞうさまに、かさこと手ぬぐいをかぶせたところを選んで演じてみようかな。 ・帰ってきたじいさまを、ばあさまが優しく迎えてくれたところを演じたいな。 ・じいさまとばあさまがもちつきのまねごとをするところを演じよう。 	
<p>劇の発表会をしよう⑯⑰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの劇を見たら、じいさまとばあさまの優しさがすごく伝わってきたよ。 ・じいさまや、ばあさまになりきって演じると気持ちがよくわかったよ。 ・貧しい生活のじいさまとばあさまだけど、お互いのことを思いやっていて幸せそうだね。 	

4 研究の実際

(1) 登場人物の優しさの根拠となる言葉を中心に動作化を行う【手だて1】

まず物語全体を通して、人物の優しさを感じられる表現や行動の言葉を探した。すると、じいさまだけでなく、ばあさま、じぞうさま、みんなが優しいということに児童は気づいた。そこで、「どこがどのように優しいのか詳しく読み深めてみよう」と動機づけをした。そして、じいさまやばあさま、じぞうさまの優しさが特に表れている場面について、動作化を行うことにした。具体的には、「じいさまのじぞうさまに対する優しさが表れている3場面」「じいさまとばあさまの優しさが表れている4場面」「じぞうさまのじいさまとばあさまに対する優しさが表れている5場面」を取り上げた。そして、場面全体ではなく、子どもたちが着目した言葉や教師側が取り上げたい言葉にしぼって動作化をすることで、そのような動作を選んだ理由や想像したことを焦点化して話し合い、それぞれの場面における登場人物の「優しさ」について読み深められることを目指した。

(2) 動作化をする際の学習の流れをスモールステップで示す【手だて2】

① 動作化の合い言葉を提示する【手だて2-(1)】

導入として、まずは教師が動作化をして見せた。「とんぼりとんぼり町を出て」の部分では、「**A**すたすた元気に歩く」「**B**ゆっくり下を向いて歩く」の2パターンの動作化を示し、見比べて検討する活動を行った。

T1: **A**と**B**どちらの動作がいいかな。

C1: **B**の方がゆっくり歩いているからいいと思う。

T2: どうしてゆっくり歩く方がいいの。

C2: 「とんぼりとんぼり」って書いてあって、かさこが一つも売れなくて、このときのじいさまはがっかりしたと思うから。僕もがっかりしているときは力が出ないし、下を向いて元気なさそうにがっかりした感じに歩くから。

C3: そうそう、がっかりしているときに元気に歩くのはおかしいもんね。

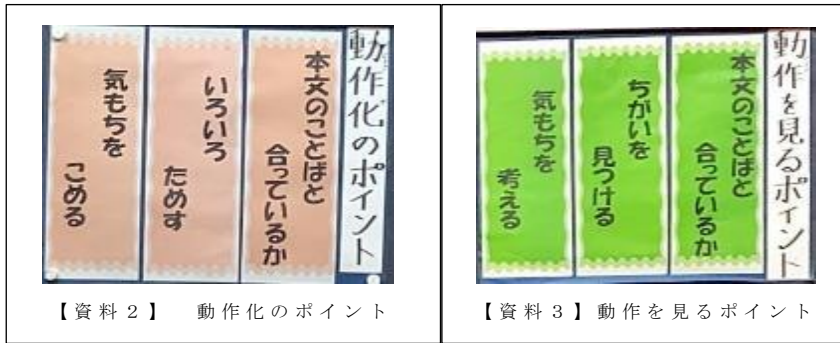
C4: あと、下を向いていて表情もなんか暗い感じだった。

【資料1】授業記録

C1の発言を受けてT2のように投げかけると、C2が自分の経験ももとにして、「とんぼりとんぼり」に込められた動作やその理由を発言した。すると、それを聞いたC3やC4から下線部のような発言が出され、じいさまのがっかりした気持ちや様子を具体的に説明することができた。【資料1】

教師の示す二つの動作を見比べる活動により、描写の意味(正しく読む)、動作からわかる人物の気持ち(想像して読む)という二つの視点をおさえながら児童の発言を引き出し、読みを深めていった。また、自分でも動作をやってみようとする姿が見られた。その姿を褒め、「次の時間からはみんなで動作化をして、じいさまやばあさまたちの優しさを詳しく見つけていこう」と投げかけた。そして、この時間に行った動作や話し合いの様子をもとに、ど

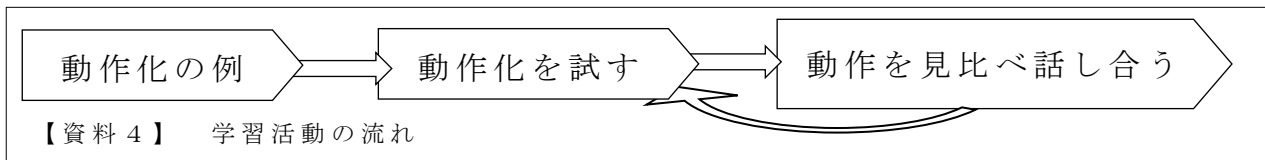
んなことに気をつけるとよいかを確認した。それらをまとめ、「動作化のポイント」「動作を見るポイント」の合言葉とした。それぞれを教室に提示することで、常にポイントを意識して取り組めるようにした。【資料 2・3】



「動作化のポイント」「動作を見るポイント」の合言葉とした。それぞれを教室に提示することで、常にポイントを意識して取り組めるようにした。【資料 2・3】

② 動作化を試して撮影する【手だて 2-(2)】

動作化の様子は My タブレットで撮影して動画に残し、必要に応じて何度も見られるようにした。学習活動の流れを明確化し、これを繰り返すことで活動に慣れ、自分で考え、工夫して取り組む姿を目ざした。【資料 4】



第 7, 9, 11 時は、児童が 4、5 人のグループに分かれ、「①動作化する人 ②撮影する人 ③本文を読む人 ④⑤見る人」と、役割を交代して活動した。児童がタブレットで動画を撮影し、提出する。教師はその動画の中から二つを選び、見比べることができるように次時に向けて準備をしておいた。

③ 動作を見比べて話し合う【手だて 2-(3)】

第 8, 10, 12 時では、動画を見比べて気づいたことを出し合った。動作化した児童にもどんな気持ちを込めたのかを聞き、両方の考えを確認した。ア 3 場面「風でとばぬよう、しっかりあごのところでむすんで」の話し合い

第 3 場面は物語の展開に大きく関わる大切な場面である。動画を見た児童・動作化した児童・じぞうさま役をした児童の順に意見を出し合い、じいさまの優しさについて読みが深まることを目ざした。C2 や C3 は細かな動作の意図も発言しており、動作を見たことで、じぞうさまを大切に思う様子を捉えていることがわかる。C5 や C6 の発言が続き、じいさまとじぞうさまが心を通わせている様子の温かさについて読みが深まっていった。【資料 5】

T1: 動画からじいさまのどんな気持ちが伝わってきたかな。

C1: そっとかぶせていて、優しい気持ち。

C2: 風が強いと帽子が飛ばされちゃうみたいに、せっかくかぶせてあげたかさこが飛んでいかないように、かぶせた後ぎゅっぎゅって押さえるといいと思う。

C3: 「しっかりあごのところでむすんで」と書いてあるから、固くむすんだと思う。でも、首が絞まらないくらいの固さだね。じゃないと苦しくなっちゃうから。

C4: そうそう、痛くならないように。

T2: 動作した人はどんな気持ちを込めたかな。

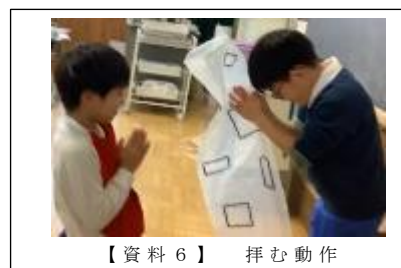
C5: 「ふきっさらし」で寒かったよね。もう太丈夫だからね。少しでも暖かくなるようにって。

T3: じぞうさまをやった人はどう思った。

C6: 優しくしてくれてうれしかった。何かあげようかなと思った。

【資料 5】 授業記録

次に、じぞうさまに拝む動作をした動画を紹介した。【資料6】その後で、前の動画と見比べて気づいたことがないかと問いかけた。



【資料6】 拝む動作

- T4: さっきの動画と比べて何か気づいたことはありますか。
C5: 手を合わせていた。
T5: その動きからじいさまのどんな気持ちが伝わってきたかな。
C6: 「おらのでわりいが」って書いてあるから、わしので申し訳ない。これしかないけど、どうか寒さに耐えてほしい。
T6: どうして申し訳ないのかな。
C6: 「つぎはぎの手ぬぐい」だから、ぼろぼろな布。かさの数が足りなくて、こんなのでごめんねという気持ち。
T7: 動作をしてみた人はどんな気持ちを込めてやったかな。
C7: 僕の手ぬぐいで申し訳ないという気持ち。もうこれ以上、じぞうさまがひどい目に遭わないように大事にしたいという思いでやった。
C8: 吹雪の中だから、じいさまもすごく寒い思いをしているけど、じいさまは自分のこと以上にじぞうさまのことを大切に思っていたんだね。本当に優しいね。

【資料7】 授業記録

拝むという動作を取り上げたことにより、「申し訳ない」「こんなのでごめんね」「これ以上、ひどい目に遭わないように大事にしたい」「自分のこと以上にじぞうさまのことを大切に

に思っていた」という発言を引き出すことができた。【資料7】

イ 4 場面「ほほとわらって…あいどりのまねをしました」の話し合い

「餅つき」「あいどり」の意味を確認した後、ペアで動作化をした。見比べの活動では、笑っていない動作と手を口のところに添えて笑う動作を取り上げた。【資料8】



【資料8】 笑っていない動作とほほと笑う動作

- C1: ちゃんと笑ってる。
T1: どんな気持ちを込めて笑う動作をしたのかな。
C2: いきなり餅つきのまねごとをしたじいさまを見て、びっくりしたのと、おもしろくてつい笑ってしまったんだと思う。
C3: 『ほほと』と書いてあるから、大声で笑うではなく、くすっと笑った感じをちゃんと動作でやったんだね。
C4: もちこも買えなくて、お正月の準備はできていないけど、(挿し)絵もにっこり笑顔だし、二人とも楽しそうだね。

【資料9】 授業記録

「ほほと笑う」を正しく捉えている児童の動作を取り上げたことが、「大声ではなく、くすっと笑った」という発言につながり、何も物がなく、お腹もすいて

いるひもじい年越しであっても、明るい気持ちで床についた二人の様子をおさえることができた。【資料9】

(3) 動作化に対する問い返し、発問を工夫する【手だて3】

①第8時の問い返し「何も無いのに、なぜ安心なのか」

3場面の話し合いでは、『やっとな安心して家に帰りました』と書いてあるけれど、かさこも売れない、もちこも手に入らない、手ぬぐいまであげてしまった。何も無いのに、なぜ安心なのか」と発問した。「安心」の正体を明確にすることをねらうためである。これに対し、子どもたちからは、次のよう

な考えが出された。

○かさは足りなかったけれど、最後のじぞうさまに自分の手ぬぐいをかぶせてあげられて、少しは寒い思いをしなくて済むかなと思って安心した。

○自分のことよりじぞうさまのことを一番に考え、大事なじぞうさまによいことができたから安心できた。ばあさまをがっかりさせなくて済む。

○ばあさまもきっと喜んでくれると思った。

じぞうさまに対する「安心」の気持ちだけでなく、かきこが売れなくてもばあさまは喜んでくれるはずだと考えるじいさまの様子までしっかりとつかんでいる。このことから、じいさまやばあさまの人柄も捉えて読みを深めていることがわかる。

②第10時の問い返し「二人は、どんな気持ちで休んだのだろう」

4場面の話し合いでは、最後に年越しの夜に床につくじいさまとばあさまの気持ちについて問い返した。児童たちは、楽しそうに餅つきのまねごとをした二人の様子を動作化した活動をもとにさまざまな意見を出していた。

T1: じいさま、ばあさまは、どんな気持ちで休んだのかな。

C1: もちこは買えなかったけど、よいお正月が迎えられるといいな。

C2: もちこなしの新しい年、最悪。悲しい。

C3: しょうがない。正月だけでもちこの用意できない、はあ。

T2: ため息をついた感じね。悲しみながら寝たのかな。

C4: もちつきのまねごとができてうれしい。

C5: 88ページの(挿し)絵を見ると、悲しそうじゃない、うれしい。

T3: もちこもない、夕ご飯もつけなとお湯だけなのに、どうしてうれしいのかな。

C6: おばあさん、ほほって笑っていたよ。じいさまと一緒に餅つきのまねごとができたから。

C7: ひとりじゃない、じいさまもいるから、もちこはないけどうれしい。

C8: 餅つきのまねごとが楽しかった。おもしろかった。気持ちよく休めそう。

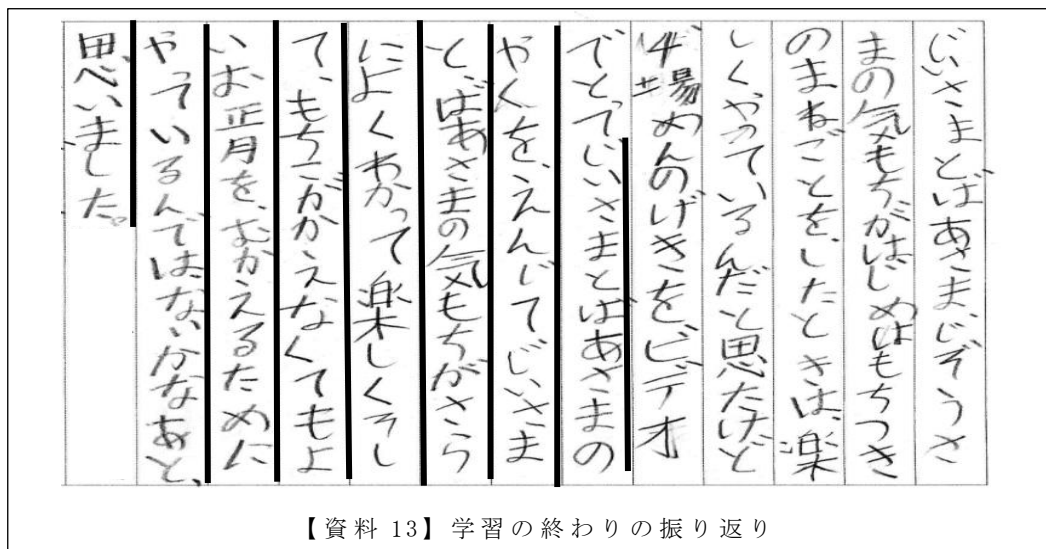
【資料10】授業記録

C2やC3が「最悪」「はあ…」といった暗い気持ちだと発言したので、受け止めつつも「悲しみながら寝たのかな」と問いかけた。すると、餅つきの動作化をしたC4や挿し絵を手がかりにしたC5が「うれしい」という発言をした。そこで、更に「もちこもない、夕ご飯もつけなとお湯だけなのに、どうしてうれしいの」と揺さぶった。すると、C6～C8から「じいさまと一緒に」「ひとりじゃない」「まねごとが楽しかった」といった発言が出され、貧しくても二人で楽しく過ごそうとするじいさまとばあさまの様子について読みを深めていくことができた。【資料10】

③第13時の問い返し「ものがなかったら、よいお正月ではないのかな」

5場面の話し合いでは、これまでの動作化の活動や話し合いで読み深めてきたことを振り返りながら考える児童の姿が見られた。初めは「ものがあるからよい正月」と考え、じぞうさまが、じいさまとばあさまに正月のものを届けたという出来事に注目した意見が多かった。そこで、「ものがなかったら、

振り返りの記述からも、動作化の活動を通して人物の気持ちに寄り添って想像を広げ、人物の言動に込められた気持ちについても読み深められた姿が伝わってきた。【資料 13】



【資料 13】学習の終わりの振り返り

5 研究の成果と課題

(1) 成果

動作化を取り上げたことで、児童が人物の気持ちに寄り添いながら、優しい行動の背景にある思いにも想像を巡らせて読み取ることができた。

また、学習活動の流れをスモールステップで示したことで、活動内容が明確になった。動作化や見比べる際の視点となる合い言葉を手がかりに、本文の言葉を根拠にして話す様子もみられた。授業を重ねるごとに子どもたちが主体的に動作を吟味し、自分の言葉で言い換えたり付け加えたりして読み取ったことをすすんで発言するようになってきた。動作化したこと・二つの動画を見比べることによって細かな描写にも着目し、自分と友達の動作の違いからそれぞれの読みを共有しながら深めていくことができたと考える。

動作化や発言の根拠を促したり、読みの曖昧な部分を揺さぶったりするような発問を用意することで、以前に比べて詳しく自分の考えを説明することができる児童が増えたのも、この実践の大きな成果だと実感している。

(2) 課題

動作を見比べる活動における、見比べ方の工夫

教師が一つの動画を提示し、児童が自分の動画と見比べる活動、互いの動画をグループで見比べる活動等、個々の動作化を生かした交流の場を設ける。

より主体的・探究的な学びへと繋げるための工夫

今回は教師からの投げかけで課題を解決することがまだ多かったが、児童の疑問や困り感、解決したい事柄に合わせた学習課題を設定する。

〔参考文献〕 ●佐藤多佳子,上月康弘(2023)『小学校国語科物語の教材研究大全 1・2年, 明治図書 ●田中実,須貝千里,難波博孝(2023)『21世紀に生きる読者を育てる第三項理論が拓く文学研究/文学教育 小学校』,明治図書